

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 < Plan >		担当課		課長名	記入者
		学校教育		松本寿朗	松本寿朗
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度	
特別支援教育の充実		○ 新規	20 年度	年度	
		継続	H19以前	○ 未定	
事務事業の体系					
計画掲載	(章)		2笑顔でつつむ、あったかいまち		(節)
	(基本計画)		学校教育の充実		
個別計画					
根拠法令・条例・要綱等			事業区分 (該当する区分に「○」)		
特別支援教育の充実推進について (文部科学省)			○ ソフト事業	施設の維持管理	
			義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容			建設・整備事業	計画などの策定	
幼稚園児を対象に臨床心理士による生活・行動観察等を実施し、その結果に基づき早期発見と事例研修等による教職員の知識理解、対応方法の向上を図る。			補助金の支給	有	無
			委託	全部委託	一部委託
			○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 < Plan >		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
幼稚園児	幼稚園児	発達障がい児に対する教職員の知識理解、対応方法の向上

3 事務事業にかかる予算細目 < Plan >				会計名	一般	会計			
細目名	教育指導費			細目名					
予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節
	10	1	3	8					

4 事務事業実施にかかるコスト < Do >						
事務事業・人員		単位	19年度 決算	20年度 見込	21年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト				120	120	臨床心理士による観察・事例研修
コストの内訳	直接事業費	千円				
	所属内間接費					
	投入人員	人/年		0.10	0.10	
財源内訳	国・県支出金	千円				
	地方債					
	その他特定財源					
一般財源				120	120	

5 事務事業の手段 < Plan > と活動指標 < Do >						
事務事業を構成する業務	手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1 園児の観察	早期発見と早期対応への機会回数	早期発見のための定期観察回数	回	-	4園各2回	4園各2回
2 事例指導		園の教職員への指導回数	回	-	4園各2回	4園各2回
3 研修会		指導の共有化のための研修会開催回数	回	-	4回	4回
4						
5						

(ソフト事業)

6 事務事業の実績 < Do >		事務事業名 [特別支援教育の充実]			
成果指標(意図の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
観察・指導回数	回	—	8回	8回	4 幼稚園での開催回数
研修会	回	—	4回	4回	

7 事務事業の事後評価 < Check >				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への対応性	住民ニーズは		○ 高い	高くない		把握なし	健康福祉課・子ども課と連携・調整して実施している。	
		緊急性は		○ 高い	高くない				
		利用者・対象者数は		○ 増加	減少		横ばい		
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は		○ ない	ある		把握なし		
	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は		○ ない	ある				
		国や県の事業(サービス)との重複は		○ ない	ある				
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は		○ ない	ある				
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は		ない	○ ある				
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は		ない	ある	○ 把握なし			
	連携の可能性	他課で類似の事業は		○ ない	ある				
		他の事業と統合できる可能性は		○ ない	ある		あるが困難		
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は		○ ない	ある		あるが困難		
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は		ない	ある		あるが困難		
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は		ない	○ ある				
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○ ある				
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○ ある				
		受益者負担を見直す余地は		ない	○ ある				
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで		○ ある	ない				
		前年より成果が上がって		いる	いない		横ばい		
	持続の可能性	継続することによる効果は		○ 高い	高くない				
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて		いる	いない	○ 測定困難			
		事業の休・廃止による住民への影響は		大きい	○ 大きくない				
市場化の可能性	既に全部委託済		更なる委託化が可能である		○ 委託化の余地があり		委託化は不可能		
	市場化テストの導入について検討する余地がある				市場化テストの導入を検討する余地はない				
改善の可能性				1.改善の余地はない				2.改善の余地がややある	
				○ 3.改善の余地が多い				4.抜本的な見直しが必要	

8 改善提案と今後の改善の方向性 < Action >					
職場からの意見		今後の具体的な取り組み			
(施策を取り巻く環境) 早期対応の重要性が叫ばれる中、専門的な立場からの診断をしてもらえる機会が望まれている。		(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 多動的で自閉的傾向の強い子どもたちへの対応は、早期に障がいを見出し、その障がいにあった対応を計画的、継続的に行うことが重要である。そのために、幼児期の就学前に専門職である臨床心理士による診断、対応指導を受けることはたいへん効果がある。			
(課題の解決についての提案など) 発達障害の支援として、早期発見と早期対応がなによりも効果が期待できる。早期発見を活かすためにも対応の人的体制の充実が必要である。		自己評価		4(目標以上に達成されている)	
今後の方向性	1.重点的に継続	2.現状のまま継続	○ 3.内容を見直しながら継続	4.縮小を検討	
	5.統合・連携を検討	6.休止・廃止を検討	7.終了・完了		